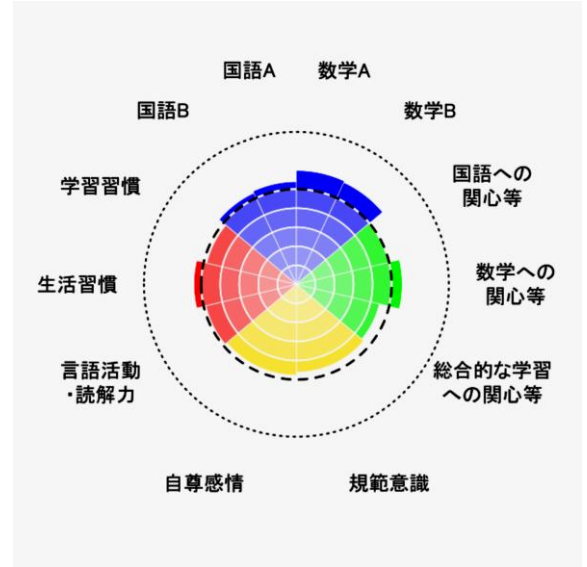
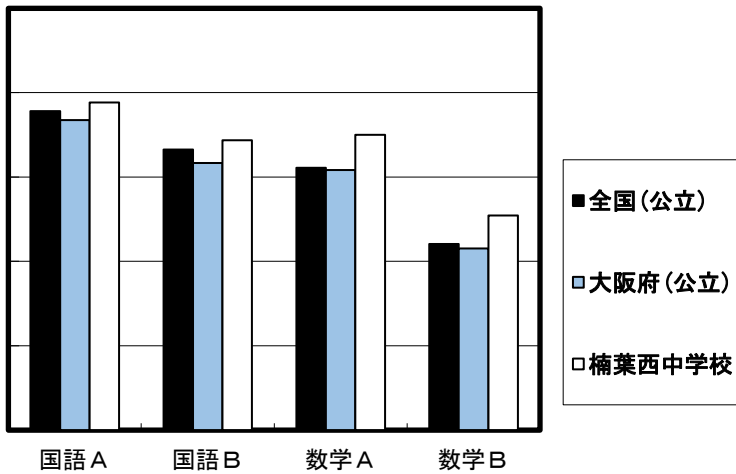


平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の分析結果

本年 4 月 19 日 (火) に実施された「全国学力・学習状況調査」の分析を行い、「平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の結果と本校の成果と課題」としてまとめました。ご覧いただき、今後の学習の参考にしていただければと思います。

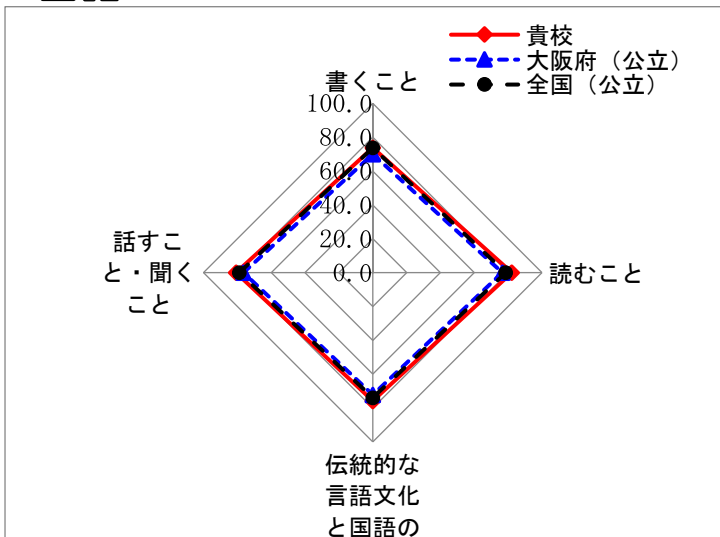
平成28年度全国学力・学習状況調査(楠葉西中学校)



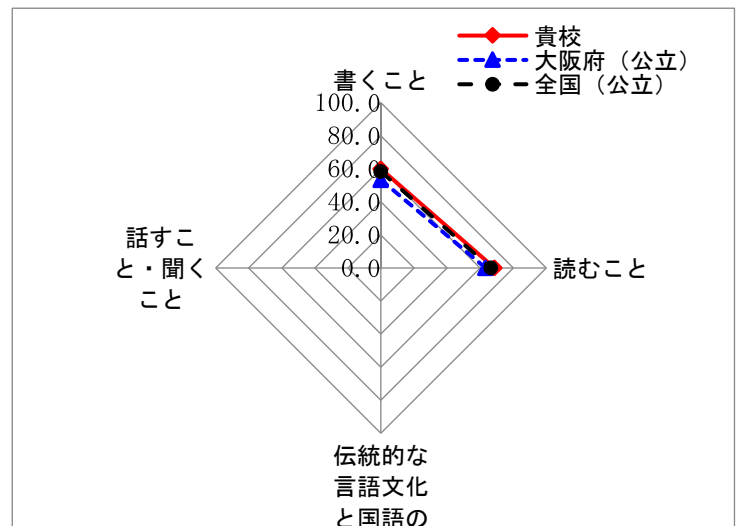
学力調査は全国平均を上回っていますが、規範意識・自尊感情・言語活動・読解力・学習習慣は全国平均を下回り今後課題が残りました。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

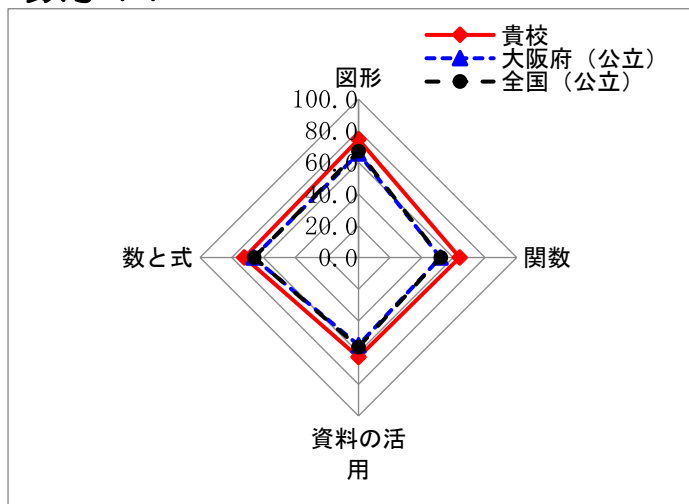
国語 A



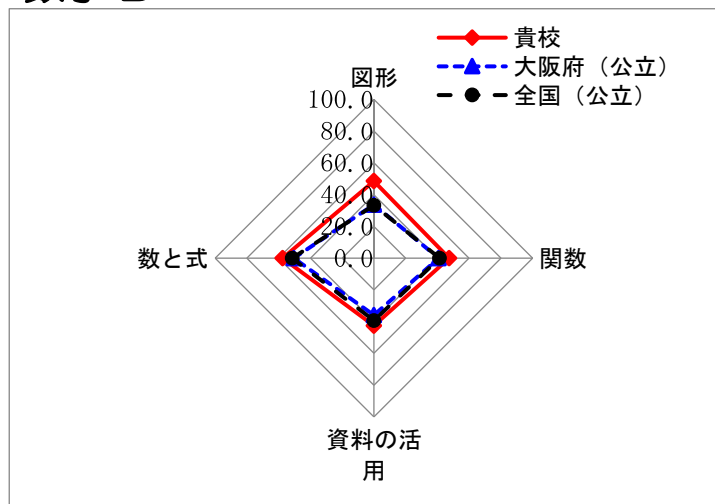
国語 B



数学 A



数学 B



【学力調査に見られる成果と課題】

2. <国語>各問題を分析しての課題

【国語 A：主として知識】

①「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」②「互いの発言を検討して自分の考えを広げる」③「奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する」④「漢字を書く」⑤「適切な語句・敬語を選択する」問題が高い正答率であった。しかし、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」という問題の正答率は低かった。

特に、①②の問題の正答率の高さについては、生徒質問用紙の回答において「話し合う内容を理解し、相手の考えを聞き、自分の考えを伝えることができた」という質問に「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」が 74.9%、また国語の授業において「自分の考えを話す取り組みをしている」が 61%、「自分の考えを書くときは考えの理由がわかるように気をつけている」が 67.7%であった。⑤の「適切な語句を選ぶ」問題について、「白羽の矢が立つ」という慣用句の正答率が高かったのに対し、同じ慣用句である「手塩にかける」の正答率が低かった。

【国語 B：主として活用】

「ちらしを見て問題に適切に答える」もののなかで「ちらしにかかれていることを読み取る」問題、「その工夫について自分で考えて書く」問題の正答率が高かった。

様々な媒体に書かれた内容を読み取ること、また、自分の考えを述べることが良くできていた。それに対して実生活の経験に根ざした問題（図書館で情報を集める方法を答える問題）の正答率がきわめて低かった。生徒質問用紙の回答を見ると「本を読んだり、借りたりするために学校図書館・地域の図書館にどれくらい行くか」という問題に対して「行かない・ほとんど行かない」と答えた生徒が 67.1%に上った。これは、全国や大阪府と比較しても高い数字である。

3. <国語>今後に向けた課題

今後に向けた改善点としては、①ただ、「自分の意見を書く・伝える」だけではなく「それが相手に効果的に伝わるような工夫をする」ことを心がける指導を行うこと、また②学校図書館や地域の図書館を利用する機会を増やすことである。

①の改善点については、授業の中で話し合いの機会を多く設けることがよいのではと考えられる。自分の意見を授業で書く・話すだけではなく、その意見をみんなで交流することで、相手に

わかりやすく伝える力が身につくと考えられる。

また、②の改善点においては調べ学習などの機会を多く持ち、学校図書館を活用することが必要であると思われる。調べ学習を行うことで、図書館での本を使った情報の集め方だけでなく、自分で課題を設定し、それを深め、問題点を発見し、その問題について興味を持って深めていくこと。また、それを発表する機会を設ければ、多くの人にわかりやすく自分の意見を伝えることが身につくのではないだろうか。

4. <数学>各問題を分析しての課題

【数学A：主として知識】

各問題別にみると、数と式の「自然数の意味を理解する」、図形の「多角形の外角の和の性質を理解している」、「垂線の作図の方法について理解している」、関数の「具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している」、「一次関数のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる」、「具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる」、資料の活用の「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している、「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」ことを問う問題などが全国平均の正答率を大きく上回った。

一方で、数学A問題では、「不等式の意味を読み取ることができる」、「垂線の作図の方法について理解している」、「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」ことを問う問題は全国平均を下回り、「見取り図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる」、図形の「多角形の外角の和の性質を理解している」ことを問う問題は無回答率が全国平均を上回る結果となり、定理の理解や資料から必要な情報を読み取る力に課題が残っている。

【数学B：主として活用】

数と式の「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる」、図形の「筋道を立てて考え、証明することができる」「付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる」ことを問う問題などが全国平均の正答率を大きく上回った。

5. <数学>今後に向けた課題

全体的に全国平均よりも理解度が高く、生徒質問紙の結果を見ても、数学への関心は全国平均より高くなっている。また、生活習慣の意識も高く、比較的落ち着いて学習に取り組んでいることが伺える。

しかし、「家で学校の宿題をしていますか」という質問に対し、しているという回答率が低く、学校や塾などで学習をし、家庭での自学自習の習慣があまりないことが考えられる。

学習意欲を高めつつ、学力調査の結果から定理などの理解や資料を読み取る力をつけるようにアクティブラーニングなどでクラスメートの考えを聞き、自分の考えをまとめる学習方法を検討する必要がある。